

令和4年度



学校だより  
8・9月号

令和4年8月29日

# かわかみ

横浜市立川上小学校

横浜市戸塚区秋葉町203-2 電話 811-9345 FAX811-5961

## 仲間とともに ～心づかいと思いやり～

学校長 堀部 尚久

厳しい暑さのなかで始まった39日間の夏休みでしたが、今日から前期後半の教育活動が再開しました。今夏は、熱中症の警戒情報や新型コロナウイルスの感染者数、医療逼迫の推移の状況を伝える報道とともに、例年以上に、記録的な豪雨による自然災害や子どもが被害者となる痛ましい事件事故が尽きない夏休みとなってしまいました。本校の子どもたちにおいては、体調を崩して静養を余儀なくされたという報告もありましたが、事件事故を含めて生命に関わる重篤な事態に至ったという報告はなく、今日の夏休み明け登校を迎えました。この間、保護者の皆様をはじめ、温かく見守りながらお世話をいただきました地域の皆様方には、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

夏休み中の子どもたちの活動としては、予定していた地域行事が相次いで中止となったこともあり、特別音楽クラブの活動も中止いたしました。そうした状況下でも、一部の学年の子どもたちは、栽培している植物の観察をするために来校し、植物の成長の様子を観察記録として整理する姿が見られました。残念ながら、夏休み中に子どもたちが取り組んだ自由研究や各種の作品等、学びの足跡を展示する校内作品展は、本年度も保護者の皆様の鑑賞を控えていただくこととなりますが、子どもたちには鑑賞の時間を設定し、お互いの取組を見て学び合ったり、夏の思い出を語り合ったりしながら、友達の努力や苦勞、知恵や工夫を確かめ合う予定です。

さて、夏休みが明けて、自分づくりと仲間づくりの再開です。今日の朝会では、「前期後半の過ごし方を4月に立てためあてや目標を手掛かりとして考えよう」という話をしました。個人のめあてとともに、集団としてのクラスや学年のめあてをもとに、自分はどこまでめあてに迫れているか、クラスや学年としては、どこまでめあてに迫れているかということを含めてみんなで確かめ合うこと、また、めあてに迫ろうという気持ちが自分には持っているかということも改めて考え、明日からの学校生活に臨んでほしいという話です。

「<こころ>はだれにも見えない。けれど、<こころづかい>は見える。<思い>は見えない。けれど、<思いやり>はだれにでも見える。」このフレーズは、埼玉県の詩人宮澤章二氏がつくった「行為の意味」という詩をもとに、テレビコマーシャルに使われた言葉です。心は見えないけれど、心づかいは見える。思いは見えないけれど、思いやりは見える。表記として、「心づかい」は「心遣い」、「思いやり」は「思い遣い」と書きます。この「遣」という言葉は、「相手に届ける」という意味をもつそうです。そう考えると、心や思いをもつだけではなく、「心を届ける」「思いを届ける」というように、形として、行動として、温かい心や優しい思いを他者に対して表していくことが、相手に心や思いを伝えることになるというわけです。

4月に始まった仲間づくりによって、子どもたち同士のかかわりも着実に厚みを増していると思われまます。心の繋がりにも手ごたえが感じられつつある状況にあると思われまます。学校再開によって、あいさつに始まるコミュニケーションの成立とともに、困っている仲間にもそっと声を掛けたり手助けをしたり、相手に優しく温かい言葉や行動で自分の気持ちを伝えようとする姿、「心を形や行動として表す姿」を楽しみにしています。

夏休み明けの教育活動も、引き続き感染拡大の情勢によって変更を余儀なくされることとなりますが、感染拡大防止に関する基本対策の継続、必要によって生ずる追対策等、感染拡大防止の強化を子どもたちに指導し、本校の学びづくりを進めてまいります。とは言え保護者の皆様のみならず、子どもたちの不安も依然大きいものと懸念されます。また、そうした中で子どもたちが学校生活のリズムを取り戻すまでには、時間が掛かることもあるかと思ひます。子どもたちの不安を軽減し、安全・安心を守り、笑顔で学校生活が送れるよう教職員一同さらに気持ちを引き締めて指導・支援に取り組む所存です。地域の皆様には、引き続き本校の教育活動へのご理解をいただくとともに、保護者の皆様には、ご家族並びに子どもたちの健康観察や感染拡大防止に向けたご家庭での対策の実行等、生活習慣の再確認や声掛けを、どうぞよろしくお願ひいたします。